

このイズボには耳のあるウナギがいるといわれる。このウナギは御前様の使いで人の言葉が分かり、ウナギが現れると、屋敷に何事か起きるといわれた。とくに金物の音をさせると、ウナギが出るというので、ここのイズボの水をはらってドジョウなど取るときは、金物の器は使わないで木の桶やお椀などではらい、ヘラのような物で泥を払った。大正の終り頃までこのような話が語り継がれていた。

(話者 内山正雄)

## トラが淵

《上木之崎》

木之崎、前屋敷の南を流れる川に、トラが淵と呼ぶ深い所があった。昔、トラという村の女が、夏も終り、汚れたカヤ(蚊帳)を洗ったところ、水神様の怒りにふれて、川の流れがにわかにも渦巻いて深くなり、トラは水の中に吞まれてしまった。

それ以来、ここを、トラが淵と呼ぶようになった。今は河川工事であつて、昔の面影はない。またこの地方では「カヤ」は、川で洗うものでないといわれている。

(話者 森田昌司)

## 毒清水

木之崎字明道に、今もこんこんと湧き出ている清水を毒清水と呼んでいる。